

2025 年 7 月 31 日

自己点検 自己評価

学校法人 ユニタス日本語学校

校長 益山幸久

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

1. 教育理念・目的等	評価
1. 1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2. 1-2 学校の特色は何か	5
3. 1-3 学校の将来構想を抱いているか	5
4. 1-4 理念に基づく教育が行われているか	5

〈現状・具体的な取り組み／課題〉

本校は創立以来、以下の3つの理念・目的を追求し実践している。

- 1) 日本語の習得を通じ日本文化に対する理解を深める。
- 2) 各国学生間の相互理解。
- 3) 世界平和に貢献できる人材育成。

当校では、学生の日本語能力向上を目指し、レベル別の授業を展開している。入学時と3ヶ月ごとに能力確認試験を実施し、クラス編成を行っている。

通常の日本語教育に加え、書道や茶道、琴といった日本文化を体験する機会を授業に取り入れている。

世界各国から学生が集まるため、常時30カ国以上の学生が在籍している。この多国籍な環境を活かし、学生同士が交流することで、互いの文化、宗教、風土への理解を深めている。

これにより、日本語を通じて相手を思いやる心を育む人材育成に繋がっている。

学生の学習目的は「進学」「就職」「日本語習得」の3つに大きく分かれるが、それぞれの希望に合わせた適切な進路指導も当校の強みである。

将来的な構想は以下に示す。

- 1) 教育の質の向上
- 2) 学生の質の向上
- 3) 進路指導・就職支援の強化
- 4) 学生指導の徹底
- 5) ICTを活用した教育、学生管理、業務の効率化
- 6) 学校法人の健全な運営

以上の構想は理事会・評議会、教務会議・事務会議にも示され徹底されている。

2. 学校運営	評価
5 2-1 運営方針は定められているか	5
6 2-2 事業計画は定められているか	5
7 2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	5
8 2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	5
9 2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
10 2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	5
11 2-7 危機管理体制は整備されているか	5
12 2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できる よう学校教育法に基づき整備されているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

運営方針と事業計画については、毎年、学校法人の理事会と評議員会で審議・承認されている。承認された内容は、全教職員に共有・周知される。

校長、教務主任、事務主任らが参加する会議で業務上の課題を協議している。その決定事項は、教務・事務それぞれの全体会議で共有される。また、四半期ごとに非常勤職員を含む全職員会議を開き、学校運営上の課題を議論している。こうしたプロセスを経て、運営計画や事業計画に職員の意見を反映しており、効率的な運営体制を確立している。

総務担当者が、各部署からの改善要望に対応することで、情報システムの活用による業務効率化を図っている。

危機管理体制の一環として防火管理者を任命し、適切な消防計画を作成し、関係官庁に提出している。

施設・設備は、学校教育法に基づき整備されており、定期的に実地審査を受けている。

3. 教職員	評価
13 3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5
14 3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	5
15 3-3 教職員評価を行っているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

事業計画策定時に理念・目的・目標等を基に全職員から意見を聞き、校長・教務部長・教務主任・事務主任が中心になり事業計画を策定し、教職員、非常勤講師に共有している。

教育の質の向上を図るため、定期的に研修会を実施している。校内では、職員の中で指導経験が豊富な者が講師を務める勉強会を行ったり、外部講師を招いた勉強会も定期的に行ったりすることで、多角的な視点からの指導力向上を目指している。

教職員評価について、教務では契約更新時などに授業見学を行い、教務部長が講師の評価

を行い、校長に報告をしている。また、評価については、見学者と同一の評価表を講師にも配布し、評価の観点も共有したうえで、各講師にもフィードバックをし、教育の質の向上を図っている。事務職員については事務主任が評価を行い校長に報告を報告している。評価結果は、時給の改訂及び期末手当に反映される。

4. 教育活動	評価
16 4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	5
17 4-2 授業評価の実施・評価	5
18 4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	5
19 4-4 成績評価は適切に行われているか	5
20 4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

各コースにおいては、到達目標の達成に加え、日本語の4技能（読む・聞く・書く・話す〔やりとり・発表〕）をバランスよく習得できるよう、カリキュラムを編成している。また、定期的に実施する学生アンケートの結果をもとに、学生の希望や要望を把握・共有し、教務部長および教務主任を中心に、カリキュラムおよび指導方法の改善に努めている。さらに、各クラスには担任および教務担任を配置し、毎週クラスの様子やテキスト進度等についてミーティングを行い、その内容を報告書としてまとめている。

新入生を対象にプレイスメントテスト、インタビューテストを行い、日本語能力に合わせたクラス編成を行っている。入学後は学期末の到達度テスト、会話テスト、まとめテスト、課題提出等を対象とした普段点の結果をもとに日本語能力の到達レベルに応じたクラス分けを実施している。同一レベルのクラスにおいても複数のクラスに分け、クラスレベルの均一化を図っている。

教師については定期的に模擬授業・研修を行い、問題点の解決と指導能力の向上を図っている。教員の採用時には、教育理念・目的を説明した上で、模擬授業をしてもらい十分な資質を持った教員を採用している。更に、新任講師には先輩講師の授業見学、教案指導、研修を行い、指導力の向上に力を入れている。

成績評価については、定期的に小テストを行い学習の定着を図り、期末ごとの到達度テスト、会話テスト、普段点の結果をもとに進級の判断をしている。

試験対策については、学生の希望による選択制の試験対策授業を取り入れているほか、留学試験対策課外を設置し、希望者を対象に日本語科目以外のフォローも行っている。

5. 学生支援	評価
21 5-1 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
22 5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
23 5-3 学生の心身の健康管理・事故・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	5
24 5-4 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5
25 5-5 保護者と適切に連携しているか	5
26 5-6 卒業生への支援体制はあるか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

当校は、長年蓄積した情報やノウハウを活かし学生の様々な要望に応じている。

教務・事務の担当からなる進路指導部門を置き、学内の進学・就職説明会の実施、定期的な個別面談や随時の個別指導を行い、総合的な進路サポートの体制を整えている。

また、中国語・韓国語・ベトナム語・英語ができる職員を採用し、言葉に不安がある学生への対応も十分に配慮されている。

生活面については、事故・病気の際に学校職員が通訳や仲介として学生と一緒に対応し、スムーズに問題が解決できるよう努めている。

学生寮については、近隣の不動産会社と協力し、手ごろな価格のアパートを紹介している。事務にアパート担当チームを置き、紹介したアパートに問題があった際にはすぐに不動産会社に連絡し、問題が解決するまでサポートする体制を整えている。

日本での生活において何らかの問題が発生した時には、保護者に適宜連絡し、連携しながら問題解決を図っている。学生の問題については、その都度紹介機関にも連絡をし、連携をしている。

卒業生からの証明書発行や卒業後のビザ変更相談等があった場合には対応している。

6. 在留管理と生活指導	評価
27 6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切になされているか	5
28 6-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	5
29 6-3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	5
30 6-4 常に最新の学生情報を把握しているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

入国前から紹介機関及び本人と連絡を取り合い、入国及び入学に関する情報を適宜提供している。入学後は、入学時の新入生オリエンテーションで各国語にて、毎学期の在校生オリエンテーションでは日本語にて行い、入管からの最新の指導及び出席率の重要性・資格外活動の禁止事項指導、警察署や市役所からの基本的な日本社会のルールや生活習慣につい

て具体例を示しながら指導を行っている。

学生情報については学生管理ソフトを導入し、学生指導記録や出席率管理を統合し、常に最新の情報を職員間で共有している。

7. 学生の募集と受け入れ	評価
31 7-1 学生の受入方針は定められているか	5
32 7-2 学生募集活動は、適切に行われているか	5
33 7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5
34 7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
35 7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

受け入れの基本方針は、当校の教育理念・目的に合わせ決められている。また、校長を中心とし、各募集担当からの意見を基に年度ごとの募集方針を決めている。

リスト非掲載国の学生や、その他必要と思われる学生についてはオンライン面接にて日本語学習目的及び学習歴・学歴・支弁能力を確認している。面接は確認項目を面接票に明記し、得点化し、基準を満たす優秀な学生のみを受け入れている。

学生募集については、信用ある紹介機関と提携している。紹介機関については、現地訪問や責任者との面接をし、互いの教育理念・目的を確認したうえで、適切な募集活動ができると判断した機関とのみ契約書を交わし提携している。

ホームページ・パンフレットに卒業生の進学実績や能力試験の合格実績を掲載し、募集の際の説明資料の一つとして活用している。

申請者から提出された書類は、公正かつ適正に審査し、手続きを行っている。
学生募集は、認可された定員の中で適正に行われ、在籍数も定員の中で保たれている。

8. 財務	評価
36 8-1 長中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
37 8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
38 8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	5
39 8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	3

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

当校は帝京大学グループの一員であり、長期的かつ安定した財務基盤を確立している。

新年度の予算・収支計画は、理事会および評議員会で審議され、承認を得ている。

決算時には、適正な会計処理を行ったうえで会計監査を受けている。その監査結果は、理事会と評議員会に報告され、承認されている。

財務情報の公開については、現在検討を進めている段階である。

9. 法令等の遵守	評価
40 9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
41 9-2 個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	5
42 9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
43 9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	5
44 9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

日本語教育機関として告示基準を満たし、法務省からは適正校クラスⅠの認可を受けている。東京出入国在留管理局への定期報告等必要な報告も期限までに適正に行っている。

個人情報の取り扱いについては、全職員に個人情報の保護に努めるよう徹底を図っている。

新型コロナウイルスの時期に自己点検自己評価を行っていない時期があったので、今後は毎年適切に行い、問題点の改善に努めていきたい。評価結果については学校のホームページの情報公開ページを設け、公開している。

10. 社会貢献	評価
45 10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	5
46 10-2 学生ボランティア活動を奨励・支援しているか	4

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

地域に根差した語学学校として3号館(ユニカフェ)にて一般の方も自由に参加して学生と交流できる日本語チャットタイム、英語チャットタイムを週5回実施し、地元の国際交流や言語学習の振興に努めている。

地元の行政・自治会から地区の祭りへの参加、行政主催によるイベントでのボランティア活動の要請があれば学生向けSNSで告知し、参加を勧めている。

〈総括〉

当校は40年以上の歴史を持つ日本語学校として、これまでに多数の卒業生を送り出してきた。多国籍な学生を受け入れており、現在は約35カ国から集まった学生が学んでいる。入学選考においては高い基準を設けており、厳格な試験と面接を通じて優秀な学生を選抜している。

主な進路指導は進学に重点を置いているが、近年増加している就職希望者にも対応するため、現在は就職支援にも力を入れていこうと考えている。学生一人ひとりの希望を尊重し、

進路実現に向けた丁寧な指導を徹底しており、その結果、進学・就職における合格率は 100% 近くを達成している。

今後は、教職員の研修を強化し、業務の ICT 化を推進することで、学生の満足度をさらに向上させることを目指している。これにより、教育の質向上、学生管理、学校運営の効率化を図り、より良い学習環境を提供していきたい。